

2021年5月30日～6月5日 各家庭でのディポーション用テキスト

■幻滅に対する訓練（3/3）

神のみことばがどんなにきびしくても、それが決して最終的なものではないということ、「夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある」（詩篇 30:5）ことを見出すのが、この幻滅に対する訓練の第二の段階である。神はぶどうの木をいためる不注意な庭師ではなく、自信のない精練者でもない。神は私たちの損失に代えて実を与え、浮きかすに代えて銀を与え、私たちが夢に描くどんなすばらしいものよりもはるかにすぐれたものを与えようとしておられるのである。

アブラハムはモリヤの山で、イサクの生命を取り留めることができたばかりか、すばらしい約束まで与えられた。「主の使いは……仰せられた。『これは主の御告げである。わたしは自分にかけて誓う。あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、わたしは確かにあなたを大いに祝福し……』」（創世 22:15-17）。

ルツについて言えば、ボアズ、幼いオベデ、それにベツレヘムの家を与えられたばかりではない。その子孫にダビデが生まれ、さらに救い主ご自身が人となられて、ベツレヘムにお生まれになった。モアブの孤独な悲しみの娘が、メシヤの先祖のひとりとなったのである。

またあの弟子たちについては、エマオへの途上、神のみことばが説き明かされ、彼らの心がうちに燃えただけではない（ルカ 24:27、32）。彼らの目が開かれて、自分たちとともに歩み、食卓でパンを裂かれたのが主ご自身であったことを、現実

見たのである。彼らに与えられたのは、開かれた聖書、実現されたお約束だけでなく、永遠に彼らとともにいます復活の救い主、いのちの主であった。それはガリラヤにおられた主よりもさらに現実的な、さらに驚くべきご臨在であった。

では、失望と幻滅に打ちひしがれた私たちには、主は何を備えておられるのだろうか。それはイサクのように失われた希望が取り戻され、愛する者たちが戻され、さらに大いなる約束が与えられ、アドナイ・イルエすなわち備えたもう主をさらに深く知るようになることかもしれない。あるいはボアズ、オベデ、ベツレヘムの御子のよう、私たちの悲しみの夜には夢想することもできなかった新しい祝福であるかもしれない。あるいは、私たちの信仰の旅路において、日々みことばが説き明かされて、私たちの心がうちに燃え、主が私たちとともにあってパンを裂いてくださることであるかもしれない。

至高者なる神が私たちの益のために計画してくださる幻滅は、私たちを、言い尽くしえない、いつまでも変わる事のない喜びに導いてくれる。それはたましいを探る訓練である。それは私たちを悲しみ、苦しみ、沈黙、孤独、そして一見十字架の敗北と思われるものにまで連れて行く。しかし、その十字架を越えて、それはさらに、この世においても永遠においてもいつまでも続く益と幸いに導く。それゆえ私たちは、幻滅が喜びによって消散してしまうまで、恐れを抱かず、従順に、信頼し切って、主に従ってゆこうではないか。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十五章「幻滅に対する訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。